



平成 24 年度美術鑑賞事業

東京国立近代美術館 & 紙の博物館鑑賞ツアー

ご案内



東京国立近代美術館

2013（平成 25）年 3 月 28 日（木）

主催：公益財団法人立川市地域文化振興財団

（立川市錦町 3-2-26 立川市子ども未来センター地下 1 階）

連絡先：042-526-1312

【本日のスケジュール】

※（ ）内の時間は目安です。スケジュールは変更する場合があります。

立川市子ども未来センター[出発] (9:15)

紙の博物館[見学と体験] 紙すき体験 (11:00～)

※紙すき体験は2グループに分かれての実施となります

築地市場橋駐車場[駐車] (12:30)

築地玉寿司晴海通り店[昼食・築地場外市場散策] (～14:00)

築地市場橋駐車場[出発]

東京国立近代美術館[見学] (14:30～)

※ギャラリートーク(解説)を5グループに分かれて見学、
その後は自由観覧頂けます

国立近代美術館(日本武道館前・北の丸公園第三駐車場)[出発]

立川市市民会館[到着] (18:00)

※美術館・博物館の展示内容は作品保護の観点等から急遽展示内容を変更する場合があります。ご了承下さい。

■公益財団法人立川市地域文化振興財団について



公益財団法人立川市地域文化振興財団は、文化芸術の振興に関する事業を推進し、地域社会の発展及び健康で豊かな市民生活の形成に寄与することを目的に、1988（昭和63）年4月に、立川市の外郭団体として設立されました。1990（平成2）年10月には立川市市民会館の管理運営を立川市から受託し、市民会館を拠点とした様々な文化芸術活動などを通しコミュニティ振興のための事業を展開してきました。2011（平成23）年4月からは公益財団法人としてこれまで以上に公益性を重視し、より多くの市民の皆様に文化芸術に触れる機会を提供できるよう、市民会館から市内全域に活動を広げ様々な文化事業を展開しています。2013（平成25）年4月には設立25周年を迎え、4月及び7月に記念事業として展示、ワークショップなどを開催する予定です。

■財団の美術鑑賞事業について

当財団では、国内の優れた芸術作品に触れる機会を市民の方にご提供するため、美術館を訪問し専門員などのレクチャーを受けるとともに、季節の花や自然・歴史、芸術作品に触れる美術鑑賞事業（旧スポーツ・レクリエーション事業）として、平成20年度及び平成21年度については静岡県立美術館を訪ね、日本最大級のロダンコレクションの鑑賞を行ってきました。[平成22年度は東日本大震災の影響により急遽中止]。平成23年度はフランスの印象派・ミレーコレクションを有する山梨県立美術館と桔梗屋・お菓子の美術館を鑑賞しました。

■財団の主な文化事業について

- 鑑賞事業…クラシックやポピュラーなど音楽や、演劇・古典芸能などの舞台芸術鑑賞事業、**美術鑑賞事業**
- 普及事業…市民オペラ、演劇祭・**市民絵画展**・吹奏楽などの市民参加型普及事業、ロビーコンサート・出張ステージなどの鑑賞型普及事業
- 支援事業…若手アーティストや市民団体への活動支援事業、立川市と連携し企画提案や事業実施する企画相談事業
- 広報・友の会事業…文化芸術に関する情報の収集や発信のための情報紙やホームページの運営、友の会制度
- 地域コミュニティの活性化及び振興事業…市民祭などのコミュニティ事業、**ワークショップ事業**など

■東京国立近代美術館の沿革について

日本初の国立美術館として1952（昭和27）年12月に中央区京橋に開館。2012（平成24）年12月には設立60周年を迎え、所蔵作品は12,000点を超え、日本最大級の所蔵作品数を誇ります。現在の千代田区北の丸公園一画に移転したのは1969（昭和44）年6月で、所蔵作品数の増加により再開館となりました。

60周年を迎え、所蔵品ギャラリーがリニューアルとなり、特に重要文化財（※）を展示するハイライトコーナーは必見です。

明治時代後半から現代までの近現代美術作品（絵画・彫刻・水彩画・素描・版画・写真など）があり、常時展示した初めての美術館です。（それまでの美術館は他から借りて企画展を開催することが大半でした。）

■東京国立近代美術館のコレクションについて

日本画では富岡鉄斎（とみおかてっさい）、横山大観（よこやまたいかん）、下村観山（しもむらかんざん）、速水御舟（はやみぎよしゅう）など

洋画では萬鉄五郎（よろずてつごろう）、岸田劉生（きしだりゅうせい）、佐伯祐三（さえきゆうそう）、原田直次郎（はらだなおじろう）など

西洋画ではアンリ・ルソー、ジョルジュ・ブラック、パブロ・ピカソ、ジャクソン・ポロックなどの作品が展示されています。



東山魁夷 残照（1947）

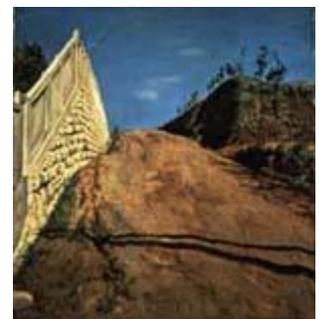


佐伯祐三 ガス灯と広告（1927）

■東京国立近代美術館の特徴について

重要文化財（※）とは日本を代表する建造物や美術工芸品のことで、東京国立近代美術館には13点（1点は寄託作品）の重要文化財があります。その内、今期では原田直次郎「騎龍観音」（きりゅうかんのん）、萬鉄五郎「裸体美人」、岸田劉生「道路と土手と堀切通之写生」、中村彝（なかむらつね）「エロシエンコ像」の4点が展示されています。

また、戦争画は戦後米軍（GHQ）が没収したものを、1970（昭和45）年日本へ無期限貸与という形で返還され、153点を一括して国立近代美術館が所蔵しています。（3階の第7展示室に5点展示してあります。）



岸田劉生 道路と土手と堀（1915）

■東京国立近代美術館の展示室について

所蔵作品展の会場入口は4階です。エントランスホールからエレベーターで4階に上がります。※ギャラリートークの集合は1階エントランスです。

4階には第1～5展示室があり、第1展示室は重要文化財を中心にコレクションの精華を凝縮したハイライトコーナーがあります。第2展示室は1907（明治40）年の文部省美術展覧会開設前後の洋画を特集しており、第3展示室は「個」と「自由」を象徴する大正時代の芸術運動、第4展示室はオスカー・ココシュカとロヴィス・コリントの版画集を展示しています。第5展示室は1920～1930年に進展した近代化と機械化が芸術に与えた影響を示します。

3階には第6～10展示室があり、第6展示室はブラック、ジョアン・ミロ、パウル・クレーなど20世紀美術を語る上で欠かせない作家の重要作品の盛田良子氏コレクション（ソニー創業者盛田昭夫氏の妻）。第8展示室は戦後のスタート、第10展示室は日本画と伝統がテーマです。速水御舟「浅春」（せんしゅん）、横山大観「暮色」などが展示されています。

2階には、第11～12展示室があり、第11展示室は1960～70年代に制作された草間彌生（くさまやよい）と横尾忠則（よこおただのり）の特集です。

また、美術館の前庭や外にはスタジオムンバイの建築プロジェクト「夏の家」や、イサム・ノグチの「門」があります。イサム・ノグチの指示で生前何度か色が塗り替えられ、その後も塗り替えを重ねています。「赤」、「赤＋黒」、「青」、「黄＋黒」の4パターン。今回の「赤＋黒」はこれまで1回しか実現していない珍しいパターンです。



イサム・ノグチ 門（1969）



第6室 盛田良子コレクション



美術館前庭にある〈夏の家〉

■紙の博物館について

紙の博物館（かみのはくぶつかん）は、北区の飛鳥山公園内にある、紙専門の博物館です。運営は、公益財団法人紙の博物館で、1950（昭和25）年、北区堀船（ほりふね）の王子製紙王子工場跡地に製紙記念館として設立されました。1995（平成7）年に、首都高速建設により現在の飛鳥山公園内に移転し、隣接する北区飛鳥山博物館、渋沢史料館とともに「飛鳥山3つの博物館」として1998（平成10）年に開館しました。2007（平成19）年11月には所蔵物全体が経済産業省から近代化産業遺産に認定されました。

4階建てで、2階に入口と第1展示室、3階に第2展示室、4階に第3展示室と第4展示室があります。1階には「紙すき体験」が行える講堂や図書室のほか、京都府葛野郡梅津村（現在の京都市右京区）にあったパピールファブリックの門扉や高札、中井商店の看板などが展示されている記念碑コーナーがあります。

第1展示室は、「現代の製紙産業」として、紙パルプの原料や製造工程などの説明パネル、製造機械の実物や模型を展示。

第2展示室は、「紙の教室」として、紙の性質を体験するコーナーや古紙のリサイクルについて。

第3展示室は、「紙の歴史・製紙産業の歩み」として、紙が誕生する前から紙が誕生して世界に広まり、現在に至るまでの紙そのものの歴史や製紙産業の歴史について。

第4展示室は、企画展示・特別展「創作折り紙 吉澤章作品展」を展示中。

■築地市場（つきじいちば）・場外市場（じょうがいいちば）について

築地市場は、中央区銀座にある公設の卸売市場です。東京都内に11か所ある東京都中央卸売場の一つですが、その規模は世界最大（広さでは大田市場が広いですが、取引金額は大田市場以上。）であり、代表的な卸売市場です。なお、築地市場の場所を指して「つきじしじょう」と呼ぶことがありますが、場所を指す場合は「しじょう」ではなく「いちば」です。

築地場外市場商店街は、築地市場の周辺にも買出人を相手とする店舗がたくさんあって「場外（じょうがい）」と呼ばれる商店街を形成しています。これに対して築地市場は「場内」です。場外は場内に比べ一般客や観光客が比較的多くなります。

参考図書：東京アートガイド（美術出版社）

知識ゼロからの美術館入門・知識ゼロからの西洋絵画入門（幻冬舎）

インターネット画像：東京国立近代美術館、紙の博物館、中央区観光協会ほか